

Reader's VIEW

2016 Vol.2 特集「21世紀に求められる力を伸ばす」へのご意見

このコーナーでは、編集部へ寄せられた読者の先生方からのご意見をご紹介します。

*『VIEW21』教育委員会版のバックナンバーは「ベネッセ教育総合研究所」ウェブサイト (<http://berd.benesse.jp/>) でご覧いただけます。

◎新しい概念が出てくると、どうしても表層的な理解のまま実践をしがちです。アクティブ・ラーニングもどう活動すればうまくいくかという側面ばかりが強調されます。しかし、評価もセットで考えなければ、有益な活動とはなりません。その意味で、第1特集で京都大学の松下佳代教授が示す「学習評価の構図」は示唆に富むもので、活動と評価の開発が今後ますます重要になると感じました。(岩手県)

◎第1特集の実践事例1「探究的な学習」では、「3つのカン」という具体的な視点で子どもの疑問や課題意識を促すという方法が、大変参考になりました。これは探究的な学習だけでなく、様々な教科授業や活動場面で、子どもも教員も活用できる視点だと思いました。(長野県)

◎21世紀に求められる力は、20世紀までと同じ「自分で問題を見つけ、考え、追究していくこと」で、変化しているのは追究する手段だと思っています。その点で、第1特集の茨城県古河市立大和田小学校の「プログラミング教育」は、自分が表現したいものを形にするプロセスが、現代的な手段で追究されているのだと感じました。(秋田県)

◎小学校英語の教科化に向けて、第2特集の千葉県流山市の取り組みが参考になりました。小中連携の指導体制も大事ですが、小学校同士の横の連携も大事です。その中心になるのは教育委員会で、カリキュラム例をはじめとした教材支援、人的支援を行い、ある程度共通の土台となる部分を示していくことが必要だと思います。(富山県)

◎外国語活動の教科化を考えると、外国語を学ぶ目的を子どもたちにどう持たせるかが課題で、英語を学ぶ意味と学ぶよさの実感を学習の中で得られるように教育課程を編成することが重要だと考えます。その視点から、第2特集の奈良県天理市のオンライン英会話授業がより具体的で、これからの姿を反映していると思いました。(千葉県)

◎第2特集の2つの事例からは、教育委員会の明確な方針とそれに基づくリーダーシップが不可欠だと感じました。特に、英語教育では小中連携が重要で、小学校で英語が教科化される際には中学校英語のあり方も検討し、今以上に両者の接続を密にしていく必要があります。自治体共通の「プログラム」は必須で、今後はICTを活用した「オンラインシステム」の導入も重要だと思います。(島根県)

◎「VIEW'S REPORT」の京都府の私立立命館小学校における「ファンクショナルバイリンガル」と言える人材育成の取り組みは、公立学校でも目標にすべきだと思います。特に、「教材づくり 5つのチェックポイント」は大切な視点で、本市の授業にも生かしていきたいです。(大阪府)

◎「小さな教委の大きな挑戦」の奈良県明日香村の幼小中連携の取り組みに関心を持ちました。郷土学習に力を入れている点が素晴らしく、古墳時代の遺跡が数多く残されている明日香村だからこそできる歴史教育に、エールを送りたいと思います。(鹿児島県)

◎「世帯年収の高い家庭ほど子どもの学力が高い」ことは今までも言われてきましたが、「ベネッセのデータで見るイマドキの教育」の中に、保護者の励ましは年収に関係なく重要であると書かれていました。本校には、生活が厳しいために教育への関心が薄い家庭が少なくありません。このデータを活用して、子どもの学びには保護者の励ましが重要であることを訴えていきたいです。(東京都)

◎「5年後の英語教育」の記事で、根岸雅史教授の「『完璧な英語でなければ』という思い込みを捨てる」という言葉に共感しました。その思い込みは日本人にありがちだと思います。また、教員対生徒に限らない、生徒同士のグループによる言語活動の推奨は、アクティブ・ラーニングにもつながるものがあり、効果的だと感じました。(神奈川県)

編集後記

今回の第1特集では、「同じ学力向上施策に取り組んでいても、なぜうまく行っているところと行かないところがあるのか?」というテーマの下、施策の内容そのものよりも、施策を達成するために必要な要素に着目して、取材・記事作成を行いました。成功要因には地域が持つ社会経済的な要素も大きく関係しますが、今回あえてそれには触れず、どの自治体でもできることを心がけて紹介してきました。ぜひ読者の皆様からの、実践経験を踏まえたご意見やご感想を伺えればと思います。(岡本)

VIEW21 教育委員会版 2016 Vol.3 2016年10月17日発行/通巻第7号

発行人 山崎昌樹
 編集人 春名啓紀
 発行所 (株)ベネッセコーポレーション
 ベネッセ教育総合研究所
 印刷製本 凸版印刷(株)
 編集協力 (有)ベンダコ
 執筆協力 佐藤智、二宮良太、長谷川敦
 撮影協力 荒川潤、竹内洋平、谷口哲、
 筒井岳彦、ヤマグチイキ

◎お問い合わせ先
 フリーダイヤル 0120-350455
 〒700-8686
 岡山市北区南方3-7-17